

# 教育長だより

No. 7

若手の先生へ（改訂版）

2022年5月9日

## 「○組は放牧。○組は軍隊。」

～ 学習規律は 何のため？ ～

こんな話、3月末にある保護者さんから聞きました。担任の先生の授業や学級経営のやり方の差を、この保護者さんたちのなかではこんな風に言われているとのこと。もう少し聞いたところ、同じ学年で隣り合うクラスの「違い」だそうです。前の組は『自由奔放』、「子どもたちが好き勝手していても先生はほとんど注意されないの、本当に子どもたちの学力がついているのか心配です。」とのこと。一方、『軍隊』のクラスは、「とにかく先生が厳しい。子どもたちは先生に怒られないようにいつもピリピリしている。」と。「ほどよって難しいんですかねえ。」と続けました。特に若手の先生方へ、授業や学級経営を進めていくうえで参考にいただければと思います。

新年度がスタートして一か月。毎年4月は一年間の授業のやり方などの「約束」を先生は子どもたちと共に作っていきます。それはクラスの子どもたちみんなが学力をつけ、また、仲間づくりを進めていくためのルールづくりでもあります。そして、その大きな一つが授業の「学習規律」です。例えば、今は先生の話聞くときなのか、あるいは話し合いをするのか、またはノートをとるのかなど・・・。「読む」「書く」「聞く」「話し合う」などの区別はもちろん、発表の仕方なども含めてルールづくりがこの時期の大きな仕事です。（これは、中学校も同じです。）

先ほどの『放牧』は、自分で学ぶ力のある子だけが学力を伸ばしていきます。好き勝手がまかりとおり、シワ寄せがいくのが「多感な子」や「多動な子」です。特に課題の重い子がますます「置いてけぼり」になります。これは「教育格差の助長」とも言えます。

一方、『軍隊』は、言い換えれば「管理的」です。先生に都合のいいように管理される子どもたち。これでは新学習指導要領の言う「話し合い活動」は望むべくもありませんね。子どもたちの自由で伸びのびした発言が出てくることはありません。先生の大声での叱責(しっせき)に委縮し、中には不登校を誘います。また、「やんちゃな子」は、先生がこわいのでおとなしくしていますが、ここで押さえつけた分、次の学年では「荒れ」に繋がる場合があります。また、小学校では大人と子どもの体格差で何とかそれができても、中学校では力で抑えることができません。ほぼ「荒れ」ます。こうした長い「見通し」をもって考えると、『軍隊』はマイナスでしかありません。

そもそも「**学習規律**」は**子どもの学びやすさのため**にあります。「学び」のユニバーサルデザイン化は、大人の「見栄(みえ)」や「心地よさ」のためではありません。主語は「子ども」ですよね。

先日の日本教育新聞（5月2・9日付）の『管理職の独り言』というコーナーにおもしろい記事がありました。「学習規律は誰のため？」というテーマ（北海道公立中学校長Mさん）です。ここで言われているのは「**大人の心地よさを優先していないか？**」ということ。私は最後の一文に心惹(ひ)かれました。「そろっているのが美しいのは、デパートに並ぶ高級イチゴやサクランボ。公立学校では

⇒ 裏面へ

選別は不要。土、水、光、肥料を熟考し、あとは汗かくだけだ。」このM校長の言葉に私がつけたします。これは、「『管理』という名のもとに先生が子どもたちの指導を徹底し、個性をなくしてみんな同じ商品のようにそろえることは、本来公教育がすべきことではありませんよ。校区のすべての子どもたちにいい教材を提供し、先生が子どもの学びをひたすら支援することが大切。」という意味でしょうか・・・。

さて、「学習規律」に戻ります。

「こんなことまで！」と言われる方もおられますが、**学力のしんどい子や特に課題の重い子などにとっては、こうしたルールがその子の学力を支援していく上で大きな意味を持ちます。**例えば、机の上に教科書やノート、資料集をどう置くかなど、学力のしんどい子にとってはそれらがゴチャゴチャになって、結局どこを見てよいのかわからなくなり、勉強にますますついていけなくなるのです。これは、小学校低・中学年ではよくあることですが、中には中学生でもそういうことが見受けられます。丁寧さが大切です。

「**授業のルールづくりが一年間の子どもの学力を決める**」とも言われます。（少しオーバーですが・・・。）ベテランの先生はこうしたことを「普通のこと」、あるいは「あたりまえのこと」と思ってやっておられます。でも、若い先生たちにとってはそうではありません。どうぞ、それを言葉にして若手の先生に伝えていただけたらと思います。以下に少し例示しましたので、学年会などで話し合ってください。

なお、規律を子どもたちと考える場合、「きまりだから守ろう。」という指導はいけません。規律の持つ意味を子どもたちにたえず考えてもらうことが大切です。「みんなで学力をつけていくために」「みんなが勉強しやすいから」という基本を伝えましょう。

## 【授業の前に大切にすること】

- 1. 机の上に出すものの定位置化**：筆箱、教科書、ノートなどを机のどこに出すのかを決めておく。小学校低学年などでは、絵に描いて視覚支援をするといいですね。（黒板の隅に画用紙を貼る。）
- 2. 机の中の整理・整頓**：授業に必要なドリルや資料集、辞書などがすぐに出せるように。
- 3. 忘れ物対策**：①教科書→隣の子に見せてもらうよう指示する。②ノート→日ごろ子どもが使っているノート（ます目など）を印刷した紙を準備しておき、忘れた子に渡す。帰宅後、その紙をノートに貼るよう指示する。（後日、ノートを確認する。）③定規やハサミなど→事前に教師が何個か準備しておき、忘れた子に貸し出す。④子どもからの「忘れ物申告」は、ルールをつくっておきましょう。

## 【授業中 大事にすること】

- 1. あいさつ**：授業のめりはりです。「今から始まる」「終わる」という頭の切替えになります。
- 2. 「読む」「書く」「聞く」の区別**：聞く姿勢などにも注意しましょう。特に低学年では「はい！聞く姿勢をしましょう！」などと、繰り返し確認することが大切です。一年を通して言い続けましょう。「〇〇さん、今の発表いいですねえ。」などのプラス評価の声かけも有効です。
- 3. 発表の仕方**：手の上げ方や発言の仕方など、発達段階に応じて考えましょう。1年後のクラス替えを見込んで少なくとも学年で統一を。
- 4. 話し合いのルール**：①話し方→「〇〇については・・・です。」「私は・・・と思います。理由は・・・」など。②机→班で机を寄せるなど。③司会をたてて進行するなど。④「3分」などとタイマー活用を。 ※ただ、あまりの「枠はめ」は、発言を阻害します。
- 5. 授業時間を守る**：「授業は生きもの」ですが、だからといって延長は極力控えましょう。プロの教師として「時間を守る」こと。そして、次時につなぎましょう。**休み時間は、子どもの権利です。**